

第3回 「震災を考える日」の取り組み

# シーベルトやベクレルをどうよむか

BCA

## ～ 福島第一原発事故から食品汚染までの報道 ～

臨界停止させた核燃料棒を、なぜこれほどまでに長く冷やしつづけなければならないのか。

新聞で報道されているシーベルトやベクレルをどう読めば良いのか。

空気中や食品に含まれる放射性物質が体内に入った場合の内部被曝と、健康診断で受けるレントゲン撮影での外部被ばくはどのように比較できるのか。

放射性物質を含んだ野菜などを摂取した場合、がんや子孫への遺伝など人体への長期にわたる影響について、どの程度なら容認できるのか。

講演では、以上のような日頃の疑問にお答えしていきます。

日時 2011年 8月24日 (水)

午後5時30分～午後7時

場所 大阪市立大学 基礎教育実験棟 1階 階段教室

講師 平澤 栄次 (理学研究科 教授)

定員 400名

申込 不要

費用 無料

主催 大阪市立大学 理学部

協力 大学広報室



# シーベルトやベクレルをどうよむか

～福島第一原発事故から食品汚染までの報道～

8月24日（水） 午後5時30分～午後7時

大阪市立大学 基礎教育実験棟 1階 階段教室

講師 平澤 栄次（理学研究科教授 理学博士・農学博士）

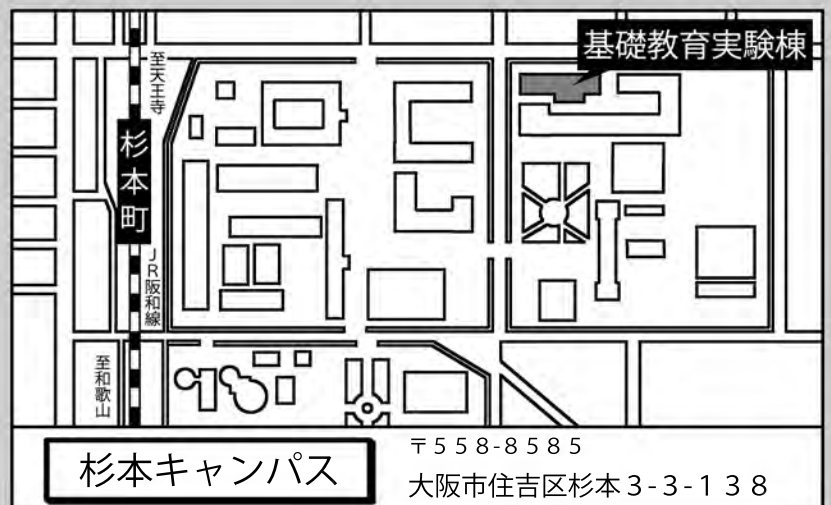
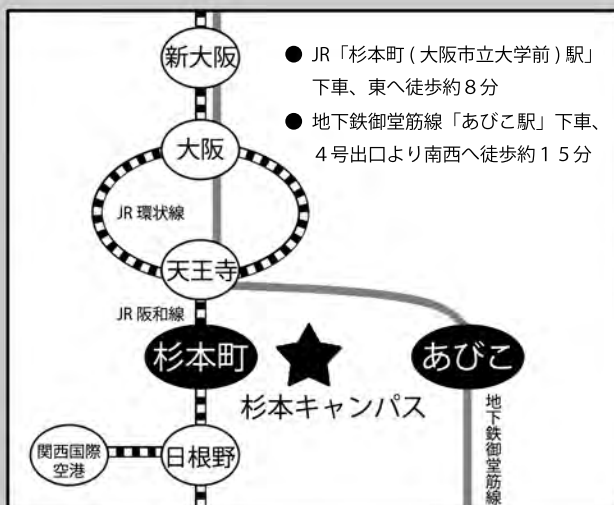


## 略歴

1950年富山県砺波市生まれ  
富山大学、京都大学大学院を経て現職  
1981年から20年間大学放射線取扱主任者として放射線総括管理責任者  
1986年から2年間ドイツのフンボルト財団研究員としてフランクフルト大学に留学  
2000年度・2001年度大学評議員  
現在、大学放射線取扱主任者の代理者  
研究テーマは植物有機栄養学  
著書は「はじめての生化学」（化学同人）や「植物の栄養30講」（朝倉書店）など  
趣味はお酒をおいしく飲むコツ

3月11日の東北大震災にともなう福島第一原発事故のほぼ25年前、演者は大阪市大での放射線取扱主任者の任務から外れてドイツに研究員として滞在していました。その当時1500キロ離れたチェルノブイリ原発事故からの放射性降下物のために混乱したフランクフルトの街の様子や汚染された食品などへの市民の対応をスライドで紹介します。

次に講演では、中学理科で学ぶ放射線や高校物理の放射線分野の授業内容をわかりやすく説明します。そして臨界停止させた核燃料棒をなぜこれほどまでにながく冷やしつづけなければならないのか、新聞で報道されているシーベルトやベクレルをどうよめばいいのか、空気中や食品に含まれる放射性物質が体内に入った場合の内部被曝と健康診断で受けるレントゲン撮影での外部被曝はどのように比較できるのか、放射性物質を含んだ野菜などを摂取した場合、がんや子孫への遺伝など人体への長期にわたる影響についてどの程度なら容認できるのかなど、日頃の疑問にお答えします。また演者の研究分野である植物栄養学からみて、なぜセシウム137が椎茸や筍、茶葉から多く検出されるのかを解説し、そして講演のおしまいにはみなさんからの質問をお受けします。



問い合わせ先：大阪市立大学 大学広報室 TEL：06-6605-3411 FAX：06-6605-3572